

昨今は宗教の問題がよく取りざたされています。そこで西谷啓治という先生が『宗教とは何か』という書物の中で次のようにおっしゃっておられますのでご紹介させていただきます。「宗教は必要かと問う人に対して、必要という言葉を用いて宗教の本質を述べるならば、生きていくうえにおいて必要なもの一切が意味を失う生の段階において必要となるもの、それが宗教である」と。

たとえ教養豊かな人であろうとも、あるいは、これさえあれば人間生きていけるんだと、生きていくために十分なものを用意している人であろうと、幸せいっぱいの人であろうと、そういうものが一切意味を失うような問題を一人ひとりが抱えているということになります。更に「宗教は必要ですか」と問う人は、まだ宗教を外から眺めている人だといえます。そういう人は、まだ宗教を必要としない人である。実はその宗教を必要としない人にこそ宗教は必要であるという矛盾した関係がそこにあると。心して聞いておかなければなりません。



昨今は宗教の問題がよく取りざたされています。そこで西谷啓治という先生が『宗教とは何か』という書物の中で次のようにおっしゃっておられますのでご紹介させていただきます。「宗教は必要かと問う人に対して、必要という言葉を用いて宗教の本質を述べるならば、生きていくうえにおいて必要なもの一切が意味を失う生の段階において必要となるもの、それが宗教である」と。

たとえ教養豊かな人であろうとも、あるいは、これさえあれば人間生きていけるんだと、生きていくために十分なものを用意している人であろうと、幸せいっぱいの人であろうと、そういうものが一切意味を失うような問題を一人ひとりが抱えているということになります。更に「宗教は必要ですか」と問う人は、まだ宗教を外から眺めている人だといえます。そういう人は、まだ宗教を必要としない人である。実はその宗教を必要としない人にこそ宗教は必要であるという矛盾した関係がそこにあると。心して聞いておかなければなりません。

